



加登 遼 (講師)

1 メッセージ

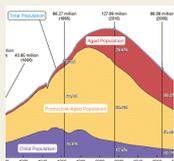
都市科学研究室は、「生活」という切り口から、人口減少に伴う都市問題に対して、都市計画・まちづくりの観点から研究しています。日本は、今後50年ほどの間、急速な人口減少を迎えます。その中で、大阪都市圏は、都市圏スケールで人口減少が始まった先進的な事例です。

そこで、都市科学研究室は、人口減少に伴う都市問題を抱えるフィールドに対して、都市計画に関する研究を通して貢献します。そのアプローチとして、フィールドのステークホルダー（行政・住民組織・企業など）の方々と共に、実践的に研究・デザインを行います。

2 研究テーマ

都市科学研究室が取り組む人口減少に伴う都市問題は、「豊かな衰退」と「不都合な再生」です。我々は、これら2つの問題に関して、大学という立場だからこそ、中長期的な視点に立ち、取り組む必要がある都市問題と考えています。

しかし、人口減少に伴う「衰退」と「再生」とは、人口や経済性の観点のみで評価できるのでしょうか？学生の皆さん自身の感性から導かれる答えもあるでしょう。我々は、学生の皆さんと共に、フィールドのステークホルダーの方々の協力を得て、その答えを探索しています。



人口減少都市
都市理論



豊かな衰退
少子高齢化問題



不都合な再生
観光都市問題

研究室HP：<https://www.haruka-kato.org/>

3 担当科目

学部

- ・ 図形科学（1回生後期, AutoCAD担当）
- ・ 建築情報学（2回生前期, Rhinoceros担当）
- ・ 建築計画学（3回生前期, 環境行動科学担当）

大学院

- ・ 居住空間情報学系特論
- ・ 設計プロジェクト・マネジメント論（泉北NT担当）

4 学生の卒業研究

卒業論文は、プロジェクトに関わってもらいながら、対話の中で皆さん自身の個性をいかしたテーマを決めて頂き、それをサポートします。

- ・ Miyu Komaki, Haruka Kato*, and Daisuke Matsushita (2023) Why Did Urban Exodus Occur during the COVID-19 Pandemic from the Perspective of Residential Preference of Each Type of Household? Case of Japanese Metropolitan Areas. *Sustainability*, 15, 4, 3315. <https://doi.org/10.3390/su15043315>
HP：<https://www.omu.ac.jp/life/info/news/entry-04650.html>
- ・ Riku Tanaka, Haruka Kato*, and Daisuke Matsushita (2023) Population Decline and Urban Transformation by Tourism Gentrification in Kyoto City. *Sustainability*, 15, 3, 2247. <https://doi.org/10.3390/su15032247>
HP：<https://www.omu.ac.jp/life/info/news/entry-04636.html>
- ・ Mikio Yoshida, Haruka Kato* (2022) Housing Affordability of Private Rental Apartments According to Room Type in Osaka Prefecture. *Sustainability*, 14, 12, 7433. <https://doi.org/10.3390/su14127433>
HP：<https://www.omu.ac.jp/life/info/news/entry-01383.html>

加登の研究と論文など：

<https://sites.google.com/view/haruka-kato/home>

5 学生のデザインプロジェクト

研究フィールドのパートナーの方々と共に、以下のようなデザインプロジェクトに取り組んできました。



上：マップづくり街歩き
下：住民との香共道路計画



修徳景観づくり事例集
の将来ビジョン作成

6 研究室活動

都市科学研究室は、少人数教育を基礎として、プロジェクト・ベースド・ラーニングを中心に、研究教育を行います。決まった方針など無く、各メンバーの個性に合わせた指導を行っています。ラボとしては、全員が集まる研究会会議と、デザインプロジェクトや卒業研究ごとの打合せを行います。また、ラボ全体の進捗状況に合わせて勉強会を行います。その他、プロジェクトに応じて、他大学の研究室や企業、行政などと、共同で研究を行う場合もあります。

なお、都市科学研究室の特徴は、学部の卒業論文で、修士修了レベル以上のアウトプットを出してもらうことにあります。そのために、濃密な1年半を過ごすことになる予定です。

問合せ先：[haruka-kato\[at\]omu.ac.jp](mailto:haruka-kato[at]omu.ac.jp)